サツマイモの販路拡大へ～小野芋好からの贈り物～

栽培専攻　サツマイモ班

Ⅰ目的

郡上でも安納芋は栽培できるのか？
郡上は山間地で昼夜の気温差が激しく雨量も多い地域である。寒さに弱いとされる安納芋の栽培は郡上ではほとんどされていない。そこで、郡上高校の圃場を試験圃場として、栽培をスタートさせた。

Ⅱ方法

マルチを二重にして地温を確保する。

	下	上
実験区１	透明	黒
実験区２	黒	透明
実験区３	黒	黒
対照区	黒	－

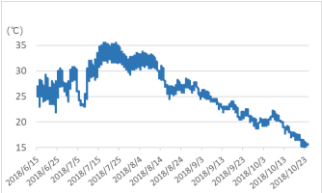
各実験区２畝ずつ準備した。
地温の測定にはサーモクロン G タイプを使用した。（写真１）
気象等についてはミハラスを使用した。（写真２）

（写真１サーモクロン G タイプ）

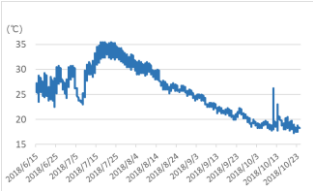
（写真２ミハラス）

Ⅲ結果

・地温については差がない。（図 1234）
・収量比較では、実験区２が実験区３と比べて 148kg 多い。（図 5）
・一株当たりの収量は差がない。（図 6）
・安納芋の栽培は被覆資材に関係なく栽培が可能である。



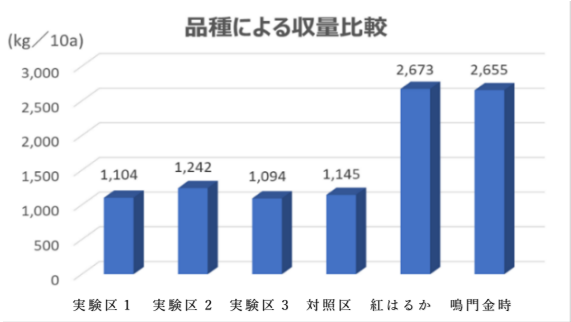
（図１実験区１）



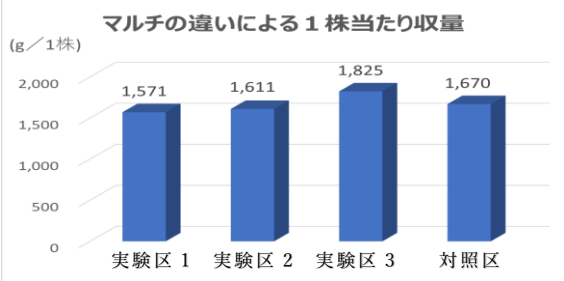
（図２実験区２）

（図３実験区３）

（図４対照区）



（図５品種による収穫量）



（図６マルチによる収穫量）

Ⅳ考察

・地温については、差がないことからマルチを一重にすれば、コスト削減につながると考える。
・一株当たりの収量には差がないが全収量になると差があることから、定植した苗の活着率に差があると考えられる。
・品種による収量比較からは、安納芋の収量は、紅はるかや鳴門金時と比較しても半分だとわかる。このことから、郡上地域で栽培されていない理由は、寒さではなく収量が少ないからであると考えられる。
郡上地域でも安納芋を栽培していくためには他の品種との差別化を図るが必要だと分かる。

Ⅴ差別化をするための取り組み

地域ブランドの起ち上げ

郡上ならではの名前で“小野芋好”と名付けて販売をスタートした。このブランド名は全国に発信することも考慮して、商標取得を目指した。

焼き芋の PR 活動

地域ブランドの知名度を向上させるために、移動販売を行った。その時にもインパクトがあるように、焼き芋器を制作、看板を作成、ロゴスタンプを作成した。

Ⅵ今後の課題

・サツマイモは収穫後の貯蔵温度や条件により糖度が高くなることが言われているので、貯蔵方法の研究を行ってほしい。
・今年度、移動販売を行ったが収量が少なく、提供できる数に限りがあった。そのため、栽培規模の拡大をして、全国に発信していけるように検討してほしい。
・商標の取得は、準備段階で終わってしまったので、商標の所得をしてほしい。